利賀っ子だより

R３．１２．１０

○　複式の授業で育つ子供たち

右は、４年生の国語科の時間の様子です。本校では、国語科は複式で学習をしていますので、指導者は２つの学年を行き来して指導することになります。当然、指導者が教室にいないという時間も生まれることになります。

この時間は、物語の主人公の始めと終わりの気持ちの違いについて、子供たちだけで話合い活動を進めていました。友達の意見を黒板に書いていたＫさん、「ちょっと待って、それってどこから引っ張ってきたこと？」と意見の基となる叙述を明らかにしようとしていました。

これまでの学習で、叙述を基に自分の考えをつくっていくこと、そして、友達との感じ方、考え方の違いを交流することを経験してきていますが、指導者がその場にいなくてもその力を発揮できるようになった子供たちに感心しました。

○　表現活動から

各学級のフロアに国語科の時間や総合的な学習の時間等に作成した新聞や冊子が掲示してあります。山村留学生を受け入れたことにより、子供たちはこれまでより多様な表現内容や方法に触れることができるようになりました。

自分にはない友達のよさを見付けたり、逆に自分のよさを友達に知ってもらったりする絶好の機会を大切に指導していきたいと思います。

１年:「じどうしゃずかんをつくろう」
２年：「おもちゃのつくりかた」

３年：「食べ物の秘密を教えます」
４年：「伝統工芸のよさを伝えよう」

高学年：宿泊学習新聞

（高田　公美）